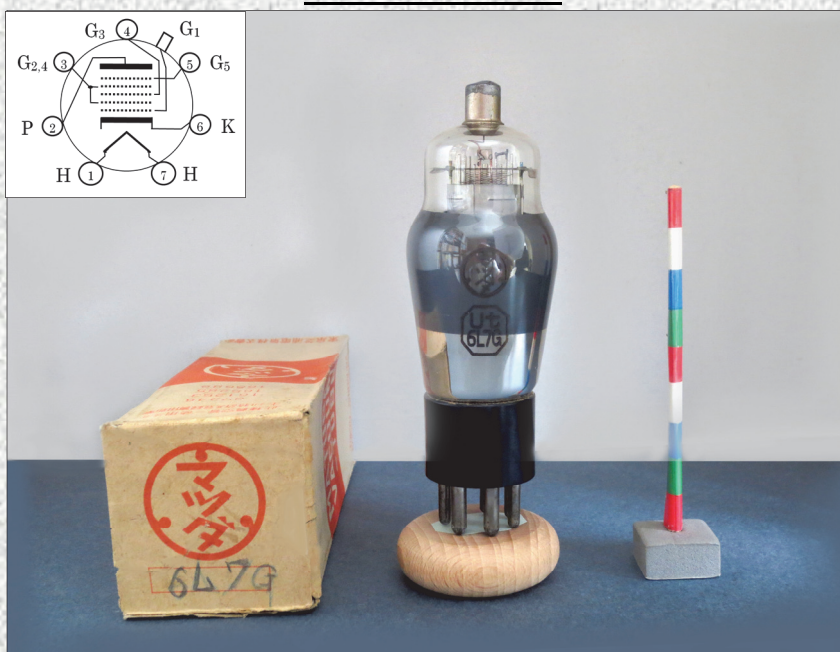


2.8 松下無線の試作テレビジョン

2.8 松下無線の試作テレビジョン

使用時期	型 名	Tube- 番号	使用回路
1939 (S14) 年	Ut-6L7G	-48	(映像電流増幅部) 高周波増幅 (音声電流増幅部) 高周波増幅 (走査電流発振部) 横偏向回路
1939 (S14) 年	UY-76	-36	(映像電流増幅部) 局部発振 (音声電流増幅部) 局部発振
1939 (S14) 年	UZ-6D6	-37	(映像電流増幅部) 映像中間周波増幅 (音声電流増幅部) 音声中間周波増幅
1939 (S14) 年	UZ-6C6	-42	(映像電流増幅部) 映像中間周波増幅 同期分離・増幅
1939 (S14) 年	UZ-42	-35	(映像電流増幅部) 映像中間周波増幅 (音声電流増幅部) 低周波増幅
1939 (S14) 年	Kt-6H6	-31	(映像電流増幅部) 映像検波
1939 (S14) 年	Ut-6B7	-45	(音声電流増幅部) 音声検波 (音声電流増幅部) 低周波増幅
1939 (S14) 年	Ut-6F7	-49	(走査電流発振部) 横偏向回路 (走査電流発振部) 縦偏向回路
1939 (S14) 年	KV-1V	-50	(走査電流発振部) 横偏向回路
1939 (S14) 年	UZ-41	-51	(走査電流発振部) 縦偏向回路
1939 (S14) 年	KX-153	-52	高圧電源
1939 (S14) 年	KX-83	-49	低圧電源

Tube- 48:

Ut-6L7G

サンプル・メーカー	東京電気（マツダ）	外形番号	ST38-1
使用時期	1939（S14）年	初期使用機種	松下無線試作テレビジョン
使用回路	（映像電流増幅部）高周波増幅 （音声電流増幅部）高周波増幅 （走査電流発振部）横偏向回路	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×300

特徴：周波数変換用 7 極管、プレート電圧=250V, $G_c=300 \mu mho$

経緯：（無線新語大辞典,1951,S26）、1959(S34)には保守品種に指定されている。

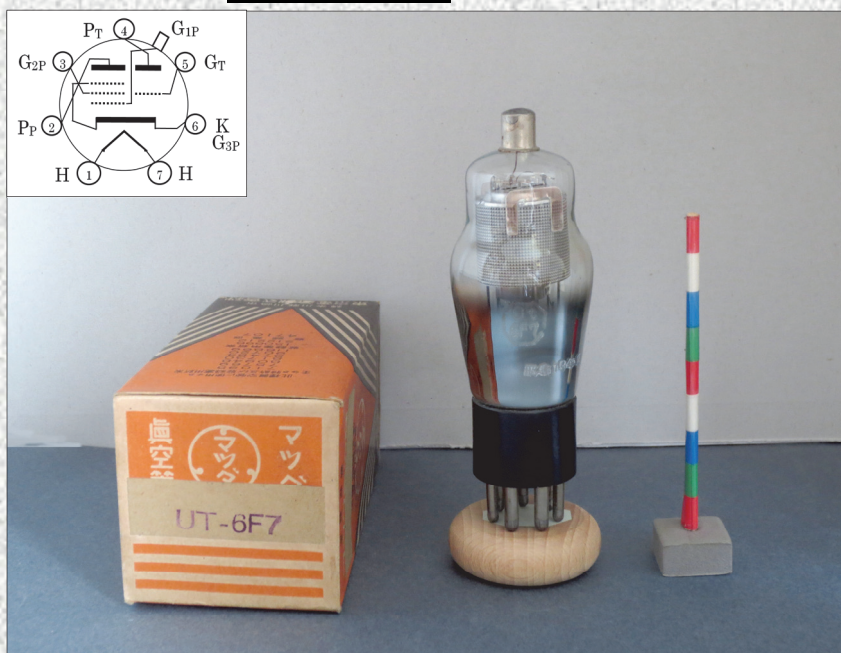
（全日本真空管マニュアル,1959）



一部拡大



通電状態

*Tube- 49:**Ut-6F7*

サンプル・メーカー	東京電気（マツダ）	外形番号	ST管
使用時期	1939（S14）年	初期使用機種	松下無線試作テレビジョン
使用回路	（走査電流発振部）横偏向回路 （走査電流発振部）縦偏向回路	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×300

特徴：周波数変換用 3 極 5 極管、（5 極部）プレート電圧=250V, $G_m=1,100 \mu mho$

（3 極部）プレート電圧=100V, $G_m=500 \mu mho$

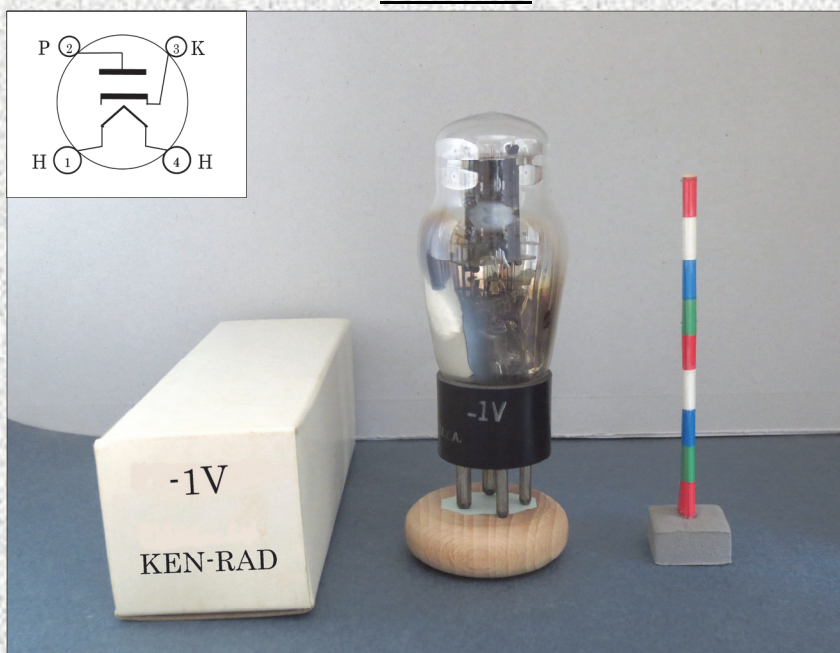
経緯：（無線新語大辞典,1951,S26）,1959(S34)には旧品種に指定されている。（全日本真空管マニュアル,1959）



一部拡大



通電状態

Tube- 50:-1V

サンプル・メーカー	USA (KENRAD)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	松下無線試作テレビジョン
使用回路	(走査電流発振部) 横偏向回路	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×300

特徴：半波整流用 2 極管用、プレート電圧=325V,プレート電流=45mA

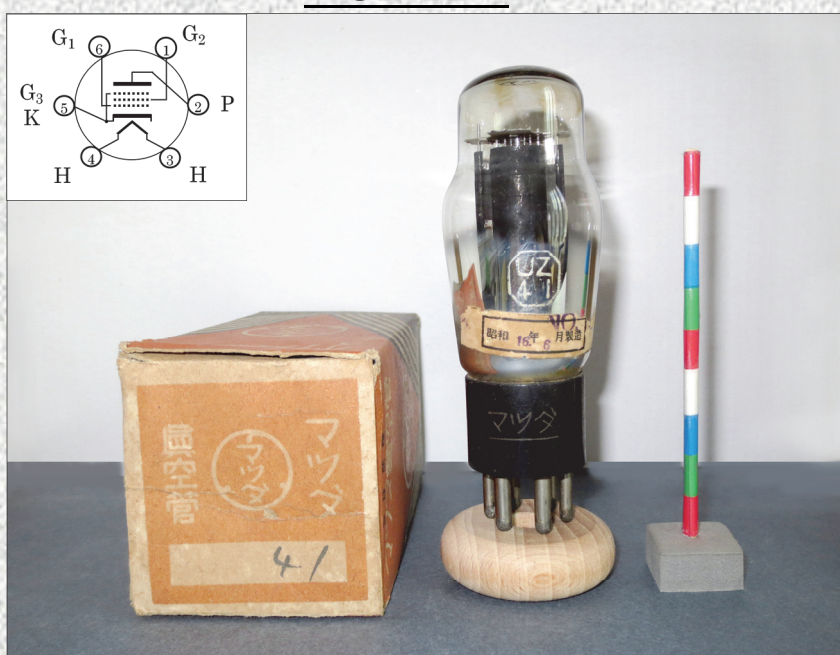
経緯：(RCA TUBE HANDBOOK,HB-3,1940)、(全世界真空管マニュアル,無線と実験付録、S31)



一部拡大



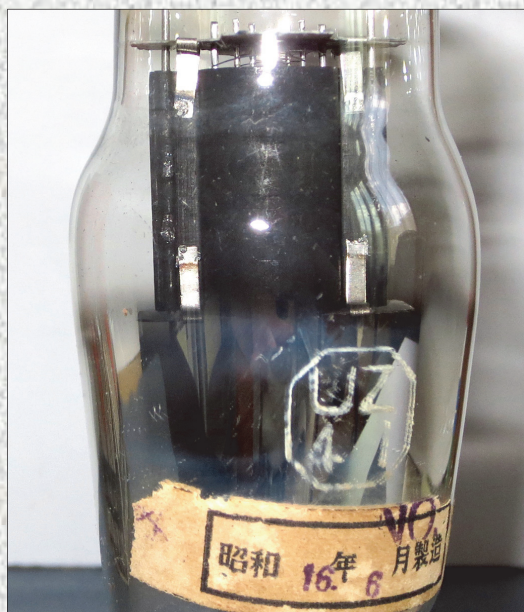
通電状態

*Tube- 51:**UZ-41*

サンプル・メーカー	東京電気（マツダ）	外形番号	ST管
使用時期	1939（S14）年	初期使用機種	松下無線試作テレビジョン
使用回路	（走査電流発振部）縦偏向回路 音声出力	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×400

特徴：増幅用、プレート電圧=180V, プレート電流=18.5mA, 出力=1.5W, $\mu=150$, $G_m=1,850 \mu mho$

経緯：1934(S9)年に発売、日本独自の命名、（標準ラヂオ大辞典, 社. 日本ラヂオ協会, 1935）

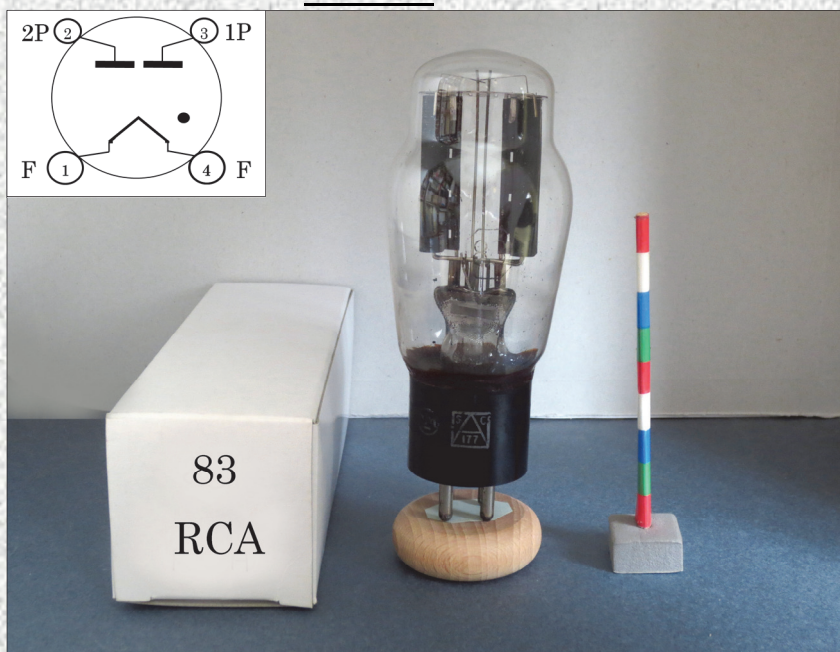


一部拡大



通電状態

Tube- 52:

83

サンプル・メーカー	USA (RCA)	外形番号	ST管
使用時期	1939 (S14) 年	初期使用機種	松下無線試作テレビジョン
使用回路	低圧電源	E_f [V] × I_f [mA]	6.3×3.0A

特徴： **HX-83**(マツダ,S8)：熱陰極水銀蒸気入全波整流管、プレート電圧=500V,プレート電流=250mA、
83(RCA,熱陰極水銀蒸気入全波整流管)・**HX-83**(双 2 極両波整流管,全世界真空管マニュアル,S31)：プレート電圧=450V,プレート電流=225mA

経緯：回路図に **KX-83** とあるが、規格表には見当たらない。マツダ規格表 (S10) に熱陰極水銀蒸気入全波整流管として **HX-83** の記載がある (S28 廃止品種)。一方、「全世界真空管マニュアル、S31」に **HX-83** が掲載されているが、その規格は RCA 規格表「熱陰極水銀蒸気入全波整流管 **83**」と同様である。ここでは、RCA の **83** をサンプルとした。

(ラヂオ用マツダ真空管 (販売店用、S10) **HX-83** (S8 発売))、(RCA TUBE HANDBOOK, HB-3,1941) 、(全世界真空管マニュアル,無線と実験付録、S31)



一部拡大



通電状態